

今後の大学における教育・学習 を支える施設・環境について

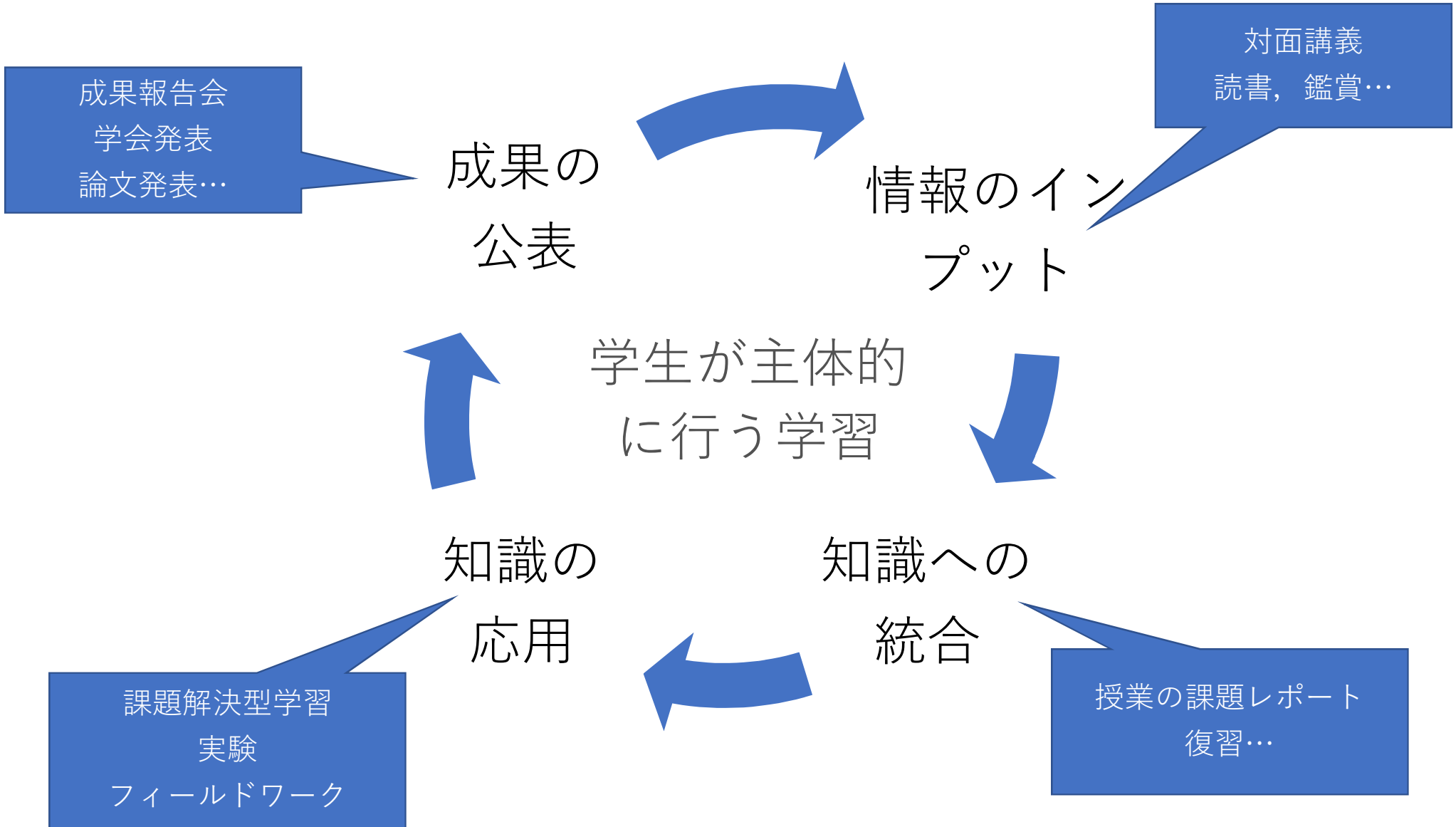
竹内 比呂也

(千葉大学副学長, 人文科学研究院教授)

令和元年12月3日

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」答申 (平成30年11月26日)

- 高等教育を「個々人の可能性を最大限に伸長する教育」へ転換
 - 学生や教員の時間と場所の制約を受けにくい教育研究環境へのニーズに対応するとともに、生涯学び続ける力や主体性を涵養するため、大規模教室での授業ではなく、少人数のアクティブ・ラーニングや情報通信技術（ICT）を活用した新たな手法の導入が必要となる。
- 個々の教員の教育手法や研究を中心にシステムが構築されるのではなく、学修者の「主体的な学び」の質を高めるシステムを構築していくためには…（中略）…学内外の資源を共有化し、連携を進め、学修者にとっての高等教育機関としての在り方に転換していく必要がある。



情報の インプット

- 「一方向的な講義型授業」は、オンライン授業（「メディア授業」）で代替できる
 - 反転授業（情報のインプットと知識への統合の場所を「反転」）
 - スマートラーニング：ICTの活用で学生にとって「いつでも、どこでも」教員とコミュニケーション可能＋十分な支援を得られる体制のもとでの学び
- 机や椅子が固定された教室は不要になる



このような
教室は今後
なくなる



新しいタイプの教室

立命館大学
(写真提供 上野武委員)

知識への統合

- インプットされた情報を統合化する過程
 - 授業課題としてのレポート作成
 - 主体的学習としての復習など
- 個人学習やグループワークといった様々なスタイルの学習が混在
 - 「沈黙考」
 - グループでの討議
 - 個人学習とグループ学習の行き来
- 我が国ではこれまで図書館等におけるラーニングコモンズの設置で対応

ラーニングコモンズ



千葉大学附属図書館／アカデミック・
リンク・センター



マンチェスター大学（写真提供：上野武委員）

知識の応用

- 課題解決型学習 (Project-Based Learning)
 - 答えのない課題への取り組み
 - 文理融合など分野横断的アプローチ
(STEAM教育)
- 必ずしもキャンパス内での学習にとどまらない
- 理系ではそのための施設としてかねてより実験室が存在 (ただし, 蝸壺からの脱却 = オープンラボ化は必要)
- 留学生混住型の寮はこのようなプラットフォームの一つ
- 文系, 文理融合の学習 (STEAM教育) においてどのような施設が必要が十分検討されていない

Project-Based Learningのための施設

- 少人数／大人数によるグループワークができる
- 緩やかなあるいは透明な仕切りで区切られており，お互いの活動を「見る」「見られる」ことができる
- 短時間で準備・撤収を繰り返すのではなく，一定期間グループでスペースを占有できる（場合によっては泊まり込みも認める）
- 「ラーニングコモンズ」や「リサーチコモンズ」活動と一体的でPBLを行う上での支援を受けることができる
- キャンパスを離れ，プロジェクトを行うフィールド内に拠点を設けることもできる



同志社大学：緩やかな仕切り

ラーニングコモンズの多くはすでにPBLに対応するための施設を有している。



千葉大学附属図書館／アカデミック・リンク・センター：透明な仕切り



マンチェスター大学
(写真提供：上野武委員)

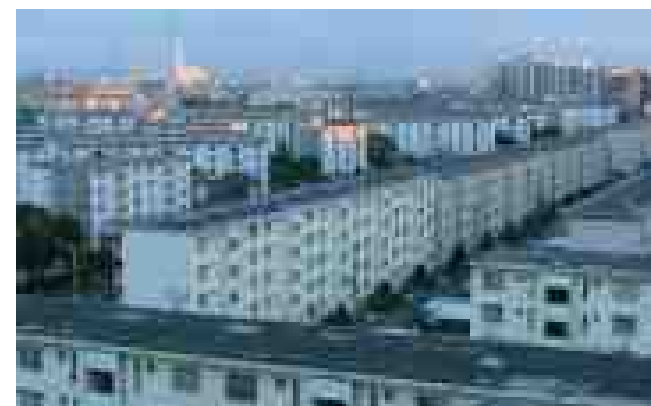


キャンパス内の寮と学習空間



シンガポール国立大学（右の写真は上野武委員提供）

サテ キャン



- 廃校となった小学校校舎を活用したサテライトキャンパス（千葉大学サテライトキャンパス美浜「サテキャン」）

(source: <http://www.chiba-u.ac.jp/>他)

成果の公表

- 課題解決型学習などの成果を公表するとともに、フィードバックを得る機会
 - 公開型のプレゼンテーションスペース
 - 大規模なポスターセッションなどができるスペース
- 多様な形態での成果の可視化

プレゼンテーションのための施設の施設

- 自由に入出りできる（セキュリティへの配慮の上）
- スペース内で自由に行き来できる
- たくさんの成果を一度に発表できる（「エキジビション・ホール」タイプ）／特定の成果を多数に対して発表できる（「シアター」タイプ）
- 最新のICT機器を備える（高輝度マルチディスプレイ，360度ビジョン，Virtual Realityなど）



「エキジビション・
ホール」タイプ（立命
館大学）
（写真提供：上野武委員）



「シアター」タイプ
(千葉大学アカデ
ミック・リンク・セ
ンター)



シンガポール国立大学図書館

https://scontent-nrt1-1.xx.fbcdn.net/v/t1.0-9/44335553_2450310394984850_8168051525155815424_o.jpg?_nc_cat=11&_nc_ht=scontent-nrt1-1.xx&oh=7a6f0f04a4de389ac75c7de958c17925&oe=5CED8D9F



ブラウン大学図書館

<https://er.educause.edu/articles/2014/6/trends-in-digital-scholarship-centers>

360度ビジョンの提供（シンガポール国立大学図書館、ミシガン州立大学図書館など）



(追加スライド)
公立はこだて未来
大学

- 2000年開学
- 「学習共同体としての大学」構想

(source : <http://www.fun.ac.jp>)

まとめ



- 「教育研究の多様化・高度化」
 - 学習者の主体性を生かし、またそれを伸ばすような、多様な形態の学びの過程全体を支え得るフレキシブルな施設・環境へ
 - 例えば、固定席・教室→多機能空間へ
- 「学生・研究者等の多様化」
 - 世界水準の教育学習を実現する施設・環境へ
 - 例えば、レジデンスと一体化した学習環境
 - 学生の主体的な学習に『添う』ことができる施設
- 「社会・地域との連携・協力の推進」
 - PBLの拠点を地域の中に→地域の施設の有効な活用

単に施設だけではなく、必ず学習活動を支援する資源（人，コンテンツ）と一体で整備を！